

伊賀市 事務事業事前評価シート

新規・ソフト事業

コード	名 称	
事業名	3015	小学校英語活動推進事業
基本施策	31	個性を伸ばし、夢を追い求められる教育を進める

担当部課名	学校教育課
作成者氏名	加納圭子
連絡先	22 - 9676

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
事業の目的	市内小学校5・6年児童	英語に興味関心を持ち、コミュニケーションを楽しむ児童が増えます。
	本年度事業内容 1. 全小学校5・6年生の「総合的な学習の時間」に、週1回の英語活動を実施する。 指導者は、英語を母国語とする外国語指導助手を招聘する	
開始年度 平成 19 年度 終了年度 平成 年度 根拠法令・要綱等		

投入資源

		H19	H20	H21
投入人員	正規職員 (人)	0.25	0.25	0.25
	人件費合計(A)	1,800	1,800	1,800
支出内訳(千円)	事業費(B)	16,892	16,892	16,892
	委託料	16,892	16,892	16,892
	その他			
	合計(A+B)	18,692	18,692	18,692
財源内訳(千円)	特定財源			
	国県支出金			
	地方債			
	受益者負担 その他特財			
一般財源	18,692	18,692	18,692	
上記 ~ に関する特記事項				

活動指標

活動指標	単位	目標値	
		平成 19 年度	年度
小学校5・6年生 週あたり英語活動時間数	時間	35	

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H19目標値
英語に興味関心を持った児童数の割合	年度末にアンケートを実施し、英語活動で身近に英語を感じ、興味関心を持った児童の割合を指標としました。	%	80

評価	必要性	4	平成17年度の中央教育審議会答申には、「グローバル社会に対応し、小学校段階における英語教育を充実する必要がある。」とされています。現在、伊賀市においても小学校での英語活動を実施していますが、十分な外国語指導助手の配置が困難なため、英語に親しむ程度で、児童のコミュニケーション能力を上げることや英語活動を将来につなげることは、ほど遠い状況です。
	有効性	4	英語を母国語とする外国語指導助手を5・6年生に週1回の英語活動を実施することで、ネイティブスピーカーの指導によって、児童の英語の発音力の大幅な改善効果が期待できます。
	効率性	4	学校において、体験学習や情報学習の場面において、英語を使ってコミュニケーションする機会を積極的に取り入れることができます。これは、伊賀市において、学校教育の大切な柱としている「学力の向上」「人権教育の充実」「キャリア教育の推進」の具体的な取り組みのひとつとなります。

総合評価

A